



広報

川越

- 川越市民憲章（抜粋）
- 郷土の伝統をたいせつにし、平和で文化の香りたかいまちにします。
 - 自然を愛し、清潔な環境を保ち、美しいるおいのあるまちにします。
 - きまりを守り、みんなで助けあう明るいまちにします。
 - 働くことに生きがいと喜びを感じ、健康でしあわせなまちにします。
 - 教養をふかめ、心ゆたかな市民として、活力にみちたまちにします。

つかもう未来

子供を写す⑭

「音がえないので吹けるかな。」かつての学芸会、今はどこでも校内音楽会に。曲が終わるまで、みんなみんな真剣だ（雷ヶ岳東小）。





老人ホームのお年寄りを招き収穫体験(昨年)



今年のジャガイモ掘り体験



今年のれんげまつり



昨年の魚つり大会



主婦インタビュー

農業と気軽につきあえる拠点づくり



野菜づくりがさかんな福原地区。この活気を市内農業に。

体験農園(予定地)での試作のようす

昭和62年度

5. 3例 PRイベント・「れんげ祭り」
9. 11月 農園の道沿いにマリーゴールドを植栽
(鴨田子供会・同老人会)
6. 1月 栽培、さつまいも苗1500本・落花生の種3a分 (芳野小児童)
28日 5月9日と同じ花いっぱい運動
7. 12日 収穫体験、ジャガイモ(市民130人)
8. 11月 収穫体験、枝豆・トウモロコシ(市民60人)
9. 22日 栽培、レンゲの種まき(来年のれんげ祭り会場予定地の水田に、芳野小児童)
27日 PRイベント・「伊佐沼魚つり大会」
10. 25日 収穫体験、さつまいも(雨天のため約20人)

群馬県甘楽町に区民休暇村を建設

日帰り体験型の農園をめざして

市ノ川 下地づくりと言いますと、課長 予定地内の水田の一部は、土を埋めたて、ジャガイモやさつまいもなどの野菜ができるようになります。持ち込んだ土は、当分は落ちつかないんですね。ですから今は、試作段階。オープニングの下地づくりを組合だけで行うのではなく、栽培や収穫の時には、広報紙などで市民の方の参加を呼びかけています。この事業の宣伝にもなりますから……。

當を主体となって進めていただきます。

市ノ川 下地づくりと言いますと、課長 予定地内の水田の一部は、土を埋めたて、ジャガイモやさつまいもなどの野菜ができるようになります。持ち込んだ土は、当分は落ちつかないんですね。ですから今は、試作段階。オープニングの下地づくりを組合だけで行うのではなく、栽培や収穫の時には、広報紙などで市民の方の参加を呼びかけています。この事業の宣伝にもなりますから……。

課長 この事業は、国の援助による事業なんです。都市化や兼業化や高齢化などで岐路にたたされている農業を活性化させるため、国では「新農業構造改善事業」を進めています。市では、この事業のうちの一つ、「農村地域農業構造改善事業」の指定を受け行っています。これは、地域農業の振興

市ノ川 私たちの農園は規模も小さいのですが、市では、大きな体験農園を計画しているようですね。

課長 伊佐沼の北側に、農業者ももとより学童や都市生活者が利用できる体験農園、体験実習館、野外緑地広場などをつくります。

農作物をつくることから縁遠なる方々に、農業を体験していく拠点にしたいのです。市ノ川 この事業は、どのように進めていくのですか。

課長 この事業は、国が援助する事業なんです。都市化や兼業化や高齢化などで岐路にたたされている農業を活性化させるため、



佐藤匡 鴨田体験農園組合長

この農園は、都市部の農地だからこそ、市民にふれあいの場

が提供できます。もちろん都内の方にも。いま頭がいっぱいなのは、農園の主をよくして収穫の安定を図ること。種類も増やして、皆さんに楽しんでもらえ

るようと考えています。

市ノ川 完成が楽しみですね。このような農園は他の都市にもありますか。

課長 全国で約六十ほどあると聞いています。都内の北区では、

一緒に農業体験を楽しむことがで

きるのではないかと思う。大

市ノ川 蔵造り見学の足をのばし

て、さつまいもの収穫を体験する

ことに期待しています。

誰もが楽しめる場に

会があれば、また参加します。

現在市が農地や農道の整備を

して、種まき・収穫を体験し、最後

に参加者全員で「手打ちうどん

パーティー」を楽しみました。

九歳、六歳の子供にとっても

良い経験に。農作業が大変なこ

と、食べるとのありがたさが

身も地元の方と交流できました。

近にできる農業体験の必要性を

自分で掘ったイモを手づかみにして喜ぶ子供の顔を見て、身

の募集みて応募しました。

この団地は、外から広報紙でジャガイモ掘

りの拠点づくりを紹介しました。

自分で掘ったイモを手づかみ

にして喜ぶ子供の顔を見て、身

の募集みて応募しました。

農業体験と関係のある方々の声を聞いてみました。

農産物供給という役割を担いながらも、社会変化の影響を受けつつある市内農業。その舞台である農業地域で今、将来のあり方を探る事業が着々と進められています。地域農業の振興と農業体験ゾーンの建設を同時に進める「農業構造改善事業」。鴨田地区で展開されている「農業構造改善事業」を紹介します。

鴨田地区／農業振興と農業体験ゾーンの建設が同時進行

事業年度は60~66年度

きき手 市ノ川洋子さん(宮元町コーンクラブ会長)

2年前から空き農地を利用して野菜づくりを続いている主婦グループの代表。農業体験の実践者として、この事業をレポートしていただきました。

答える人 福田勇・市農務課長

生産基盤の確立と農園の下地づくり

課長 鴨田地区を農業振興の実施地域に選び、農業体験ゾーンを選んでいます。伊佐沼の北側に選んだのです。そして事業年度は、昭和六十年度から六十六年度までの七か年となっています。

予定地の収穫体験に参加する機会のない子供がかわいそう。ですから広報紙でジャガイモ掘りの募集みて応募しました。

農業体験と関係のある方々の声を聞いてみました。

この団地は、外から広報紙でジャガイモ掘りの拠点づくりを紹介しました。

自分で掘ったイモを手づかみにして喜ぶ子供の顔を見て、身の募集みて応募しました。

自分で掘ったイモを手づかみにして喜ぶ子供の顔を見て、身の募集みて応募しました。

農業体験と関係のある方々の声を聞いてみました。

自分で掘ったイモを手づかみにして喜ぶ子供の顔を見て、身の募集みて応募しました。

自分で掘ったイモを手づかみ

にして喜ぶ子供の顔を見て、身

の募集みて応募しました。

